

二〇一九年五月一〇日

新樹光見守り隊のかんばせに  
早朝の夏の山気を深呼吸吸  
スナツクの看板に添ふ薔薇の鉢

明日香  
たか子  
ぼんこ

二〇一九年五月九日

今年竹さざめく中にエジソン碑  
小手毬の組んづ解れつす風いなす  
風の丘見渡す限りラベンダー  
魚河岸に飛ぶだみ声や初鰹  
若葉風大きく逸れるフリスビー  
河鹿鳴く早瀬に摩崖弥勒仏  
夏落葉分水嶺はこのあたり

菜々々  
せいじ  
ぼんこ  
宏 虎  
なつき  
もとこ  
たか子

二〇一九年五月八日

沖つ島見え隠れする卯波かな  
天指して鬨ぎ合ふやに松の芯  
首塚の主寧かれとれんげ畑  
百蝶のとまりたるかに花水木

智恵子  
素 秀  
もとこ  
れいこ

二〇一九年五月七日

夏燕沖ゆく船のゆつくりと  
坂がちの歌劇の道の花水木

うつき  
宏 虎

実の数を当てつこしつつ豌豆剥く  
こすもす

下闇に苔むす墓の累々と  
水底に届く日差しや水草生ふ  
吟行は始発電車や明易し

はく子  
れいこ  
さつき

二〇一九年五月六日

窓繰れば卯の花匂ふ雨上がり  
吊橋は丸太造りや溪若葉  
出港の弧を曳く水脈に風光る  
薔薇香るグリンチャペルの広庭に  
夕牡丹耐えきれずして崩れけり

せいじ  
さつき  
やよい  
さつき  
うつき

二〇一九年五月五日

道渡り終えし毛虫に安堵しぬ  
麦の秋地平線から飛行雲  
普賢岳まなかひにして潮干狩り

たか子  
たかを  
さつき

二〇一九年五月四日

母の唄上機嫌なる菖蒲の湯

智恵子

毎日句会みのる選・二〇一九年五月一二日